



9月幼稚園だより

令和7年9月1日

千代田区立番町幼稚園

園長 美越 英宣



東京中華学校との交流

感動の余韻とともに、歩み出す秋



幼稚園HP

園長 美越 英宣

蝉の声が遠ざかり、朝夕に秋の気配が感じられる頃となりました。長い夏季休業を経て、子どもたちが再び園に集い、その笑顔と元気な声が園舎に戻ってきたことを、心より嬉しく思います。それぞれの夏が、子どもたちの心に新たな経験と成長の種を宿し、ひとまわり大きくなった姿で迎える二学期の始まり。今ここに、また新たな一歩を踏み出す時が訪れました。この歩みが、実り多き日々への確かな序章となることを願ってやみません。

7月に開催された、東京中華学校による中華獅子舞の演舞と保護者の方が企画したコーナーで遊ぶ「親子で遊ぼう」の行事において、私たちは深い感動に包まれる瞬間を幾度も目にいたしました。保護者の皆様のご協力は、私たちの想像をはるかに超え、まさに心を一つにした営みの尊さを教えてくれるものでした。

事前の打ち合わせでは、講堂・保育室での室内の責任者、ピロティ・校庭での屋外の責任者として、それぞれの場を支えてくださる方々がいらっしゃいました。ご参加が叶わぬ中でも、前日までに新聞紙をご持参くださった方、子どもたちが挑戦する「さすけ」の場を設け、取り組み方を丁寧に伝える動画を作成してくださった方、炎天下の中「まとあてゲーム」の受付や説明を絶え間なく担ってくださった方、新聞迷路の設計図を緻密に描き、遊戯室いっぱい広がる迷路を皆で協力して作り上げてくださった方々、「アクセサリ」のブースでは、子どもたちと保護者の対応を終始温かく見守ってくださった方、「ユーフォーフリスビー」では、代わる代わる訪れる子どもたちに丁寧に説明し、遊びの楽しさを伝えてくださった方。そして、「ラグビー」では、大学の方々を招聘し、専門的な知見をもって子どもたちに貴重な体験を提供してくださった方、混雑するブースを見付けては自然と手を差し伸べてくださった方もおられました。

このように、数えきれないほどの場面で、保護者の皆様の温かなまなざしと惜しみないご尽力が、子どもたちの心を躍らせ、夢中になって遊ぶ時間を創り出してくださったのです。私はその姿に深く感動し、行事終了直後、愛児会の会長に興奮気味に感謝の言葉を述べさせていただきました。

また、保護者の皆様から寄せられたアンケートには、次のような声がありました。

○「大変満足して、子どもが“全部が一番楽しかった”と言っていました。」

○「お父さん・お母さんが活躍する姿を見た子どもたちが、とても誇らしげでした。」

○「キラキラした幼稚園時代の大切な思い出の一つになります。」

○「子どもたちだけでなく、大人たちもみんな笑顔がいっぱいで、本当に楽しかったです。」

○「どのブースでも子どもたちが楽しんでいる姿を見て、本当に笑顔あふれる素敵な行事だと実感しました。」
などです。これらの言葉は、行事の成功を物語るとともに、番町幼稚園が育ててきた温かな絆と信頼の証でもあります。私はこの行事を通して、改めて本園の魅力を実感いたしました。そして、保護者の皆様の熱量に心から感動するとともに、番町幼稚園が素晴らしい保護者の方々、そして地域の皆様に支えられていることを、深く胸に刻みました。

2学期も、子どもたちが健やかに、そして心豊かに過ごせるよう、教職員一同力を尽くしてまいります。引き続き、皆様の温かなご協力とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



パワーアップした新聞迷路



筑波大学ラグビー部との交流